

風水害等

昭和三年七月二八日一六〇年ぶりの豪雨、金沢での降水量一〇九・一ミリメートルとなり、浸水家屋五〇〇戸に及ぶ。

昭和三年六月二四日午後二六時二三分頃福井大地震福井、大聖寺方面に強震あり、大聖寺、塩屋、瀬越、橋立、三木、片山津、南郷の各町村で家屋倒壊、死傷、道路橋梁等の被害があった。金沢から長田町分団等が丸岡町に応急救援作業に出動した。

死者四一名、負傷者四五三名、家屋全壊八〇二戸、半壊一、二七四戸、震度金沢四、余震回数(金沢)有感八回無感七六回に及ぶ。

昭和五年九月三日、ジエーン台風による大災害、南方洋上より北上して、三日午前四国東部をかすめて神戸付近に上陸、若狭湾に抜けて、夕刻能登沖を通過した。金沢測候所開設以来の暴風雨が県下を通過したので被害総額三億五七六万円の被害を受けた。

家の損壊続出し、山岳地方では家屋の流出、山崩れ等が生じ、田畑の流出はいうに及ばず多大の被害を出す。

災害の甚しかった金沢市と河北郡浅川、三谷、湯涌の各村に災害救助法発動。(北国新聞)

昭和一九年九月二六日洞爺丸台風(台風一五号)金沢で二六メートルの瞬間最大風速を記録、黒部市で二三〇戸を焼く大火、青函連絡船洞爺丸ら五隻が沈没する。

死者行方不明者一、四一名、県下の被害、負傷者六名、家屋全半壊九五棟、破損四、四七〇戸。

昭和三〇年八月二日大雨、金沢で一五ミリ、床下浸水三〇〇戸。

一月九日観音町で崖崩れ、五戸全半壊、消防職員の警察官等多数が救助に当たる。

昭和三年五月三〇日森本駅構内で列車転覆事故、重軽傷者三〇名でる。

昭和三年四月三三日大雨、金沢で降水量一二三・五ミ

九月三日石川県では、被害が甚大であるので、災害救助法を発動した。気圧九八一・五ミリバール、南南西の風三二・八米、瞬間最大風速四二・八米、降水量三四ミリ、(金沢)死者四名、負傷者二一名、行方不明一六名、家屋全半壊一、〇三棟、堤防決壊一一五ヶ所、罹災者五、〇一九名。(真)

昭和二八年七月一日、日本、金沢降水量一五五ミリ、宇ノ気、一七〇ミリに達する。

死者二名、行方不明一名、負傷者七名、家屋全半壊四九戸、犀川、浅野川の橋流失七。(真)

昭和二八年八月二四、日本海東部に低気圧があつて、この中心から寒冷前線が南西にのび、この前線通過の際、雷雨となつて、加賀北部に豪雨を降らせ、多大の被害を生じた。金沢の降水量は六時四九分一三時三〇分に八〇・三ミリメートルで一時間最大量七五・七ミリメートルを記録した。(年第二位)

豪雨のため浅野川の増水著しく、浅野川大橋を除き全橋りよう流出し、沿岸民家の床上浸水数千戸、堤防決壊、民

り、常盤町で崖崩れ発生、一家五人重軽傷、消防団員等五〇数名が救助に当る。

六月三日金沢川が大氾濫、三橋流失、堤防決壊九ヶ所、約二〇〇戸浸水。

昭和三五年五月二四日チリ大地震で北陸沿岸でも地震津波 最大波高四〇・七〇センチメートルを記録。

昭和三五年九月二五日金沢市を中心とした雷を伴う集中豪雨があり、市内各所の用水が氾濫、床下浸水六五〇戸に及ぶ。

昭和三六年九月一六日第二室戸台風(台風一八号)は室戸岬を九時四五分頃通過、阪神間に上陸福井県から石川県に入るといふ最悪のコースをとつた。台風が一五時頃若狭湾東をに出て、一六時一九分に金沢で九六二・八ミリバール、気象台創設以来の最低気圧を観測した後も県下は大体平穏な状態が続いた。しかし一七時一五分頃から急に北西の風が強くなり、一八時〇六分に北西三〇・七メートル(瞬間)を観測、死者八名、行方不明者五名、負傷者八〇

金沢市二消防団 金沢市二消防団史 昭和12.1.12